


派遣報告書

平成25年 ~~4月26日~~ 3月29日

倉吉市議会議長 様

倉吉市議会
(代表) 議員 渡邊 法子 

次のとおり行政視察・調査を行ったので、その結果を報告します。

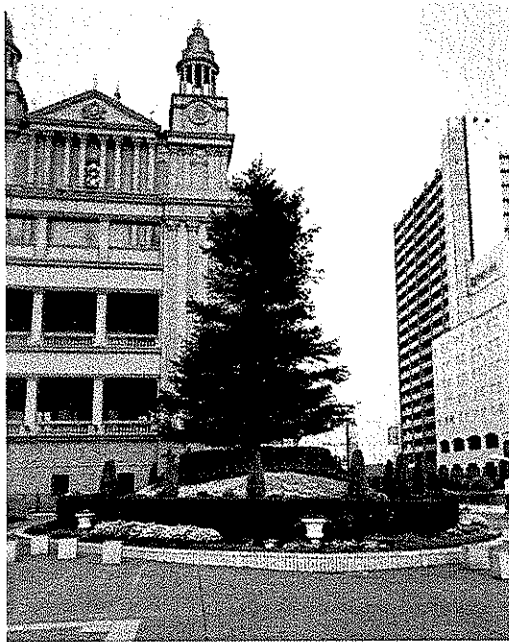
記

1 派遣期間	平成25年 3月26日 (火) から平成25年 3月27日 (水) まで
2 派遣先	下関市
3 視察 (調査) 議員名	渡邊 法子
4 面会者	下関市議会 事務局長 中西 幸春 下関市観光交流部 観光課 課長 補佐 由井 和夫
5 派遣目的	下関市の観光政策を学ぶ。今年度の観光政策について
6 視察の経過及び感想	別紙 視察報告「下関の街に学ぶ」
7 添付書類	(1) 別紙
	(2)

要した経費： 1人合計 43,300 円

レトロの町に学ぶ

会派くらよし 渡邊法子



レトロモダンなJR下関駅前

何故下関なのか

倉吉市が「レトロのまちづくり」と称して本格的に事業に取り組み始めたのが6年ほど前である。中心市街地の各商店及び元商店のショーウィンドウに昭和30年代頃に使われていた生活用具等が申しわけ程度に並べられている。そして、元人形店だった空店舗を「レトロ館」として、これまた昭和の生活用具であるミシン、アイロン、テレビ、卓状台などが展示してある。

昨年、平成24年度から、レトロ館はくらよし観光MICE協会に管理運営が委託されている。民間委託によって、更に内容が充実されることが期待されていたが、レトロ館の予算は、家賃のみで、事業費がゼロでは内容の改善どころか、何も出来ないだろう。

協会の調査によると、観光客がレトロ館に滞在する時間は、長くて5分という、地元ではその存在すらほとんど認知されていない。このままの状態ではレトロのまちを本当に観光商品として売り出していくことが出来るのか、その方策を考える為にレトロのまち先進地である下関市を訪れた。

下関市観光交流ビジョン2022

市民が育てた花で飾られた
下関市海峽花通り



下関市は観光を「主要産業」と位置づけ10年後の観光客を現在の年間600万人から1,000万人に増やすことを目標として「下関市観光交流ビジョン2022」を昨年策定している。

学ぶべきは、イベント、観光プロモーション、コンベンション誘致、人材育成、外国人観光客誘致など合計15の分野ごとに専門的戦略施策をかけた、官民協働でレベルアップがはかられていること、倉吉市がいますぐ取り入れることが出来るような例をひとつあげると、「観光案内」がある。

案内する内容を「女子旅（歴女旅）」「グルメ旅」「修学旅行」「家族旅行」「団体旅行」「個人旅行」「シルバー世代」に分類、それぞれのメニューにあわせたレベルの高い楽しいガイドブックが用意されている。並行して質の高い案内が出来る人材も育成し、それぞれのニーズに応える努力がなされている。ちなみに、女子旅用のガイドブックはB6版10ページで、ピンク、イエロー、グリーンを基調とした持ち歩きに便利な可愛いもので、市の若手女性職員4名によって作られ、女性好みのおすすめスポットが食と歴史を中心に紹介されていて、見ているだけで楽しくなる。

B6版しものせき女子旅マップ→



視察報告

レトロの町に学ぶ 「倉吉の観光事業」



倉吉春まつり 平成25年の打吹公園の入り口

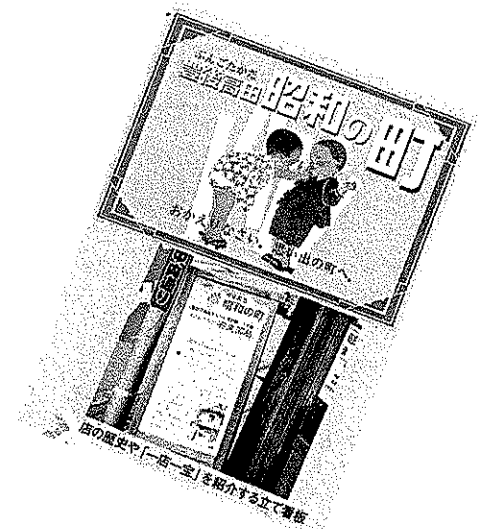
倉吉市は観光事業のほとんどをくらし観光MICE協会に委ねた形だが、レトロ館の内容の充実や歴史、文化にかかわる観光の充実をはかるには、各分野に専門家を配置する必要がある。協会が責任を持って出来る事と、出来ない事を明確にし、整理した上で、早急に新しい協力体制を作るべきだと考える。

倉吉市は、倉吉緋や陶芸など手工芸作家が多数活躍しているにもかかわらずそれらを生かしきれていない。「手工芸のまち倉吉」はマネジメントさえうまく出来れば、立派な観光商品となり得る。

一例をあげれば、県内作家の手工芸品を一堂に集めたイベントと打吹まつりを同時開催して、花の季節に観光客を増やすことも決して不可能ではないだろう。

人が今、昭和を懐かしく思うのは、「モノ」が簡単に作られ、使用され、捨てられていく大量生産、大量消費の時代を背景に、ひとつの「モノ」が大切に扱われ、共有されていた時代の人間同士の礼儀や家族同士の思いやりなど、経済的な貧しさが人間同士の心あたたまるつき合いによって豊かなものに転じられていたことの素晴らしさを、レトロな「モノ」を通して再体験するからではないだろうか。もし、そうであるなら、手工芸の作り手が、ひとつひとつ心をこめて作り出す「モノ」と、それを求める人との間にも心豊かな人間同士のつながりが生まれるはずである。

今の時代に、レトロが必要とされる意味を今一度問い直し、観光商品が有すべき「哲学」を確立した上で、レトロ館の再構成がなされるべきと考える。



スタイルアサヒ
「昭和」の風景へ旅するより

最後に今回の視察でお世話になった下関市議会事務局長の中西様、下関市観光交流部観光政策課課長補佐の関本様、同企画振興係長の萱野様に厚くお礼申し上げます。